

広報

とちぎ

2016 **12**
NO.80

発行/栃木市
〒328-8686 栃木県栃木市万町9-25
編集/総合政策部シティプロモーション課
☎0282-21-2316

<http://www.city.tochigi.lg.jp>



(栃木文化会館にて10月1日撮影)

今月の1枚 歌麿夢芝居にて、カーテンコールに応える出演者のみなさん

第6回歌麿まつり みんなで作りに上げた市民劇 ～歌麿夢芝居「恋しや恋し母子草」～

歌麿のゆかりの地

この栃木の地との関わりが深いと言われている、江戸時代の浮世絵師、喜多川歌麿。この歌麿の縁(ゆかり)にちなんで始められた「歌麿まつり」も、今年で6回目を数えました。10月1日から10日まで行われたまつり期間中は、歌麿の描いた華やかな、おいらん一行が市内を練り歩く「歌麿道中」をはじめ、市で所有する歌麿の肉筆画や、歌麿の最高傑作と評される「深川の雪」「品川の月」「吉原の花」の高精細複製画の展示など、蔵の街が歌麿色に染まった10日間となりました。中でも今回のまつりのハイライトとなったのが、歌麿没後210年記念公演として栃木文化会館にて行われた、市民劇「歌麿夢芝居」恋しや恋し母子草」です。

歌麿の謎に迫る

謎に包まれた歌麿の生涯。市在住のアマチュア作家吉永洋一郎さんの脚本によるこの夢芝居では、歌麿作品に登場する栃木の狂歌師と歌麿とのつながりなどから、栃木の地を歌麿の故郷と仮定しています。「母と子の絆」をテーマに、寛政の改革で逆境に陥った歌麿が故郷で力を取り戻す、という、歌麿の謎に大胆に迫ったストーリーとなりました。

市民の手による芝居

この夢芝居は、「歌麿を活かしたまちづくり協議会」の構成団体である市民グループ「とちぎ歌麿シアタープロジェクト」(大木洋リリーダ他8人)によって企画されました。また公募により、子どもたちも含めた22人の市民が出演したほか、多くの市民の手によって舞台が支えられました。主役である歌麿を演じた大平地域在住の戸田夏樹さんは「最初は参加者同士、ぎこちないところもありましたが、次第に打ち解けて、心を通じ合わせながら芝居をすることができるようになりました。栃木と歌麿の縁を通じて、今後も皆さんと一緒に栃木をもっと楽しいまちにしていければ、と思います。」と語ってくださいました。

目次

表紙 第6回歌麿まつり ～歌麿夢芝居「恋しや恋し母子草」～… 1

特集 ～とちぎの「おもしろい」をひらく～ パーラートチギ …… 2

インフォメーション	文化芸術のお知らせ …… 12
(今月の注目情報) …… 4	子育て広場 …… 13
(各課からのお知らせ) …… 7	健康情報コーナー …… 14
(募集・催し) …… 9	渡良瀬遊水地のなかまたち …… 15
(講座・スポーツ) …… 10	わが家の天使/お知らせ …… 15
みんなの伝言板 …… 11	まちかどニュース …… 16



栃木市マスコットキャラクター とち介

栃木市の人口

人口/162,977人 (-68)
 男/ 81,008人 (-24)
 女/ 81,969人 (-44)
 世帯数/ 63,839世帯 (25)
 ※住民基本台帳より
 9月末現在()内は前月比



市章



市の鳥「カモ」